報告

第9回ソフトサイエンス・ワークショップを終えて

中村 和男*

1. ソフトサイエンスへの新たな挑戦

周囲の山々にはまだ雪が残る越後の地、長岡で、3月15、16日の両日ソフトサイエンス・ワークショップが開催された。このワークショップは、ノンエンジニアリング・ファジィ研究部会として回を重ねてきたワークショップを引継ぎ、ソフトサイエンス研究部会への改名に伴い再出発したものである。本ワークショップは心理、言語、経済、社会学などの人文・社会科学、そして数学、哲学、自然科学はもちろん教育、会計、経営、マーケティング、デザインなどの実践的分野、そしてそれらと工学との境界領域のシステム関連の方々が横断的に意見交換する場として年1度集まってきたものである。しかし、「非工学」という意味の名称はあまりにも消極的で、工学関連の方々が参加しにくいという背景があり、さらにファジィを核とする柔軟な知的思考法を、より幅広い新しい分野にも広げたいという思いから、生まれ変わったのである。これに、北信越支部の賛同が得られ、共催いただけたのである。

2. 開かれた学会活動の試み

これまでのファジィ学会の諸活動は概して学会員以外に対しては限定的であったといわざるをえない。これに対し、本研究部会は発足当時から、会員以外の方にも積極的に諸活動に参加いただき、相互の情報交換を行なうとともに、ファジィ思考を様々な分野に広めようと会員・非会員の区別をしてこなかった。今回は積極的に一般の人達にその活動を知ってもらおうと、市民参加を呼びかけることとし、特別講演を無料公開としたのである。そのような趣旨から特別講演講師には工業デザイ

ン界の重鎮でファジィやニューラルネットなどを積極的にデザインプロセスに取り入れる研究をなさっている東京工芸大学の森典彦教授にお願いすることにし、公開の趣旨に賛同いただいた。さらに、このような趣旨を新潟県や長岡市にもお話しし、その後援を得ることができたとともに、長岡市では市の広報紙でアナウンスしてもらった。特別講演は「デザイナーに代わるシステムは可能か」と題して行われ、デザインという感性的・創造的活動においてもこれまで直観に頼っていた作業の一部は支援システムに肩代わりさせられる可能性があり、それは、企画段階での支援と形づくりの段階での支援に分けられることを述べられた。企画段階では、多変量解析などにより、ユーザの好き嫌いを価値観による合理的部分と嗜好による非合理的な部分に分けた形で理解すること、形づくりでは、感性的な情報処理過程に現れるデザイン要素の組から起こる因果関係の類縁的連鎖に着目し、その逆推論でのイメージパターンの探索を行なうことを目指した支援システムが考えられるという。

こうしたまさにソフトサイエンスとしての神髄に関わる高度な内容にもかかわらず豊富なデザイ

写真1：森先生による特別講演の質疑の風景

Kazuo NAKAMURA

* 長岡技術科学大学 計画・経営系

ン事例を用いて素人である我々にもある程度理解できるようにお話しいただけた。80人収容の会場は満席となり、一般市民の方9名の参加を得るとともに、長岡地区ではあるがケーブルTVの取材もあり、翌日のニュースで放映されたのである。

3. 春の息吹きの中での活発な議論

さて、ワークショップへの参加状況であるが、表1に示すように、学生の19名を含め78名になり、2つの会場に分かれて活発な議論がなされた。その一般講演の発表分野の内訳であるが、表2に示すように人文・社会科学からそれらを踏まえた諸システム構築のための方法論に至るまで広範な分野にわたっている。これらのプログラムは長岡技術科学大学の山田耕一先生にお願いし、12のセッションとして配置された。特に今回、経営・決定関係が多かったのは、英語によるセッションとして北陸先端大学の中森義輝先生の企画でチェコ共和国の経営科学関係の研究者5名による発表がなされたことがある。これは、日本とチェコの意思決定関連のファジィの研究者の有志を組織し、国際共同研究に発展させようとする準備段階としての意味をもっており、本ワークショップがその一役を担うことができればソフトサイエンス分野でのファジィ学会活動の国際化への足がかりとなろう。

表1 ワークショップへの参加状況

	学会参加	市民参加
参加者数	78人	9人
男性	75	9
女性	3	0
一般	59	8
学生	19	1

表2 一般講演の発表分野

発表件数	42件
数学・評価	3
心理・感性	5
教育・社会	6
経営・決定	10
計測・画像	6
分析・モデル化	9
ヒューマンインタフェース	3

写真2：チェコからの参加者とともに
(後列左から2人目がまとめ役のJ.Ramik先生)

4. 北国の味覚がソフトサイエンスを育む

活発な議論の後に、こころを和ませてくれるのが懇親会である。今回は、楽しい話題とうまい酒を味わっていただけたと思う。長岡でのファジィ活動の先達である大里有生先生が指揮を執られ、北海道・空知研究所の中島洋一先生のご厚意で直送された滝川の地ビールによる乾杯で始まり、ノンエンジニアリング・ファジィ研究会の設立者である寺野寿郎先生を始め、これまでの本研究会の活動ゆかりの方々の熱い思い、そして遠来のチェコのみなさんの感想などが次々と披露された。それに越後の銘酒、越乃寒梅、八海山、八張鶴が加わって参加者は時間の経つのも忘れ、大いに交流することができたのである。ソフトサイエンスは和やかなところから始まるということであろう。

最後に、共催いただいた北信越支部、ソフトサイエンス研究部会の多くの方々に感謝いたします。

[問い合わせ先]

〒940-2188

長岡市上富岡町 1603-1

長岡技術科学大学計画・経営系

中村和男

TEL: 0258-47-9357

FAX: 0258-47-9350

E-mail: nakamura@kjs.nagaokaut.ac.jp